

品種解説：「キタオウ」

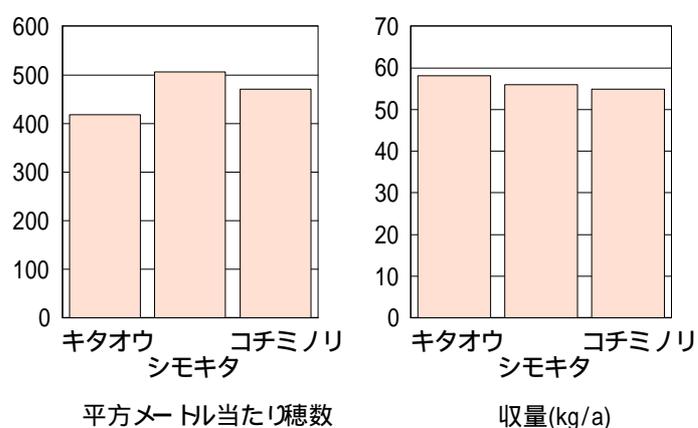
概要：本品種の耐冷性は「シモキタ」より強く、「コチミノリ」より弱い“中”である。名前の意味は、“奥羽地方北部に耐冷性良食味品種として普及することを願う”を表現する。

1．来歴の概要

多収・良食味の「ふ系 108 号」を母とし、登熟良・良質の「ふ系 113 号」を父として、1979 年に青森県農業試験場藤坂支場で交配された。1985 年に「ふ系 140 号」の地方番号が付けられ、1990 年に水稻農林 304 号として登録された。

2．形態的特性

- ・ 稈 長：「シモキタ」より短く、「コチミノリ」よりやや長い。
- ・ 穂 長：「シモキタ」並みで、「コチミノリ」より短い。
- ・ 穂 数：「シモキタ」「コチミノリ」より少ない短稈、偏穂重型のうるち種である（下図参照）。
- ・ 粒 大：「シモキタ」より大きい。
- ・ 千粒重：「シモキタ」より重い。



3．生態的特性

- ・ 出穂期：「シモキタ」より 1～2 日早く、「コチミノリ」より 2～3 日早い。
- ・ 成熟期：「シモキタ」より 2～3 日早く、「コチミノリ」より 10 日程早い。育成地では“早生の早”である。
- ・ 収量性：低温時の登熟が「シモキタ」並みに良く、「シモキタ」より多収である（上図参照）。
- ・ 耐倒伏性：「シモキタ」より強く、「コチミノリ」並みである。
- ・ 葉いもち抵抗性：「ヨネシロ」並みの“強”である。
- ・ 穂いもち抵抗性：“中”
- ・ 耐冷性：「シモキタ」より強く、「コチミノリ」より弱い“中”である。
- ・ 穂発芽性：「シモキタ」より難である。

特 性	キタオウ	シモキタ	コチミノリ
耐冷性	中	やや弱	強
耐倒伏性	やや強	中	やや強
葉いもち抵抗性	強	中	中
穂いもち抵抗性	中	中	中
穂発芽性	やや難	易	中

4．品質・食味特性

- ・粒張りが良好で、腹白、心白の発生も少ない。
- ・玄米の外観品質は「シモキタ」に優る。
- ・食味は「シモキタ」に優り、「ハマアサヒ」並みで、早生としては良食味である。

5．適地等

- ・東北北部の冷涼地帯、東北中南部以南～中部の山間冷涼地帯に適する。

6．栽培上の注意

- ・穂数がやや確保しにくいので、健苗育成に努め、初期生育の確保に努める。
- ・品質、食味の低下を防ぐため、多肥栽培を避け、適期刈り取りに努める。
- ・障害型耐冷性は十分でないので、穂ばらみ期の低温時には深水管理で幼穂を保護する。

< 参考資料 >

農林水産省農林水産技術会議事務局（平成2年6月）：平成2年農林水産省育成農作物新品種（夏作物・園芸作物）。